

花の便りもにぎやかな季節になりました。

第7回 Mosso Concert にお越し下さいましてありがとうございます。

本日は、ショパン・シューマン生誕 200 年に合わせて、プログラムを組みました。
チェロとピアノの響きをごゆっくりご堪能ください。



プログラム

チェロ 城甲 実子

ピアノ 村田 瞳美

献呈(シューマン)

この曲は、シューマンの 26 曲からなる歌曲集「ミルテの花」の第1曲で、クララとの結婚前夜に自分の花嫁クララに献呈された曲。

タンゴ(アルベニス)

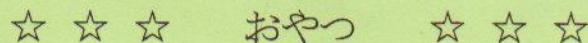
組曲『スペイン』全 6 曲のうちの第 2 曲。ドビュッシーに絶賛されたピアノ名手の作者中期の傑作の一つ。

感傷的なワルツ(チャイコフスキイ)

1882年に作曲された「6つの小品 Op.51」の第6曲で、美しい女性像を音で描いたと言われる曲。

ソナタ Op.65(ショパン)

ショパン 36~7歳の作品。ピアノ曲が多い中、チェロとピアノのデュオ作品は、3 曲残されている。この作品は4楽章構成。ピアノ伴奏というスタイルではなく、全楽章を通してチェロとピアノが対位法的に書かれており、どちらの楽器の演奏技巧も難しい。



故郷(岡野貞一)

岡野は鳥取市出身で、14 歳の時にキリスト教の洗礼を受けたクリスチャン。作品には賛美歌の影響を強く受けたと思われる3拍子のリズムを用いた旋律が数多く見られる。

修二会(三村晶子)

厳寒の東大寺二月堂で行われる「修二会」は、古都奈良に春を呼ぶ行事「お水取り」として広く人々に知られている。「修二会」で唱える声明の特徴的な旋律の動きを使い、神秘的な火と水の行法を音で描く。

鳥のうたを3曲

白鳥(サン=サーンス)

組曲「動物の謝肉祭」の中の1曲。この組曲は、彼が友人との私的な会で演奏するために書かれた遊び半分の作品で、ほとんどが他の作曲家の作品のパロディーだが、この「白鳥」はサン・サーンスのオリジナルで、全曲中で異彩をはなつ名品。

黒鳥(ヴィラ=ロボス)

ブラジル出身の作曲家。クラシックの技法にブラジル独自の音楽を取り込んだ作風で知られる。

鳥の歌(カタロニア民謡)

「鳥の歌」の原曲はキリストの誕生を祝い鳥たちが歌うという内容の、カタロニア地方に伝わるクリスマス・キャロル。

ピアノソロ

シュタイヤー舞曲(ブルグミュラー)

アルプス山脈シュタイヤー地方民族舞曲。女の子が、音楽に合わせて楽しく踊る様子を表現しているかのように聴こえる。

初めての悲しみ・小さなロマンス

(シューマン)

「子どものためのアルバム」Op.68から2曲。長女マリーの誕生日の贈り物として用意した数曲に次々と書き加え「クリスマスアルバム」と名づけていた作品集。

チェロ・ピアノ

幻想小曲集 Op.73(シューマン)

クラリネットとピアノのために作曲した作品。3つの小品から成り、それぞれ異なる性格を持つ。

第1曲「静かに、感情を込めて」

第2曲「活発に、軽やかに」

第3曲「急速に、燃えるように」